

事務局報告

第 16 回 (2003 年度第 1 回) 幹事会議事要録

日時: 2002 年 11 月 16 日 9:00 ~ 10:20

場所: 福井県立恐竜博物館研修室

出席者: 社会長, 江口庶務幹事, 齋木会計幹事, 樋泉広報・渉外幹事, 植村編集委員長, 西田編集副委員長, 半田行事委員長, 寺田行事副委員長

1. 2002 年度評議員会・総会での報告事項および審議事項を最終確認した。
2. 日本学術会議改革についての総合科学技術会議中間まとめに対する本学会パブリックコメントは提出しないことを決めた。
3. 表彰規定による受賞者には賞状を発行することとした。
4. 名簿には賛助広告を掲載することを決めた。
5. 第 17 回大会の実行委員長は寺田行事副委員長が就任した。

2002 年度評議員会議事要録

日時: 2002 年 11 月 16 日 10:30 ~ 12:50

場所: 福井県立恐竜博物館研修室

出席者: 社会長, 守田, 能城, 沖津, 大井, 鈴木, 高原, 山田評議員; 江口庶務幹事, 齋木会計幹事, 樋泉広報・渉外幹事, 植村編集委員長, 半田行事委員長

1. 2002 年度の事業報告および会計報告・会計監査報告 (総会資料) を承認した。
2. 2003 年度事業計画の幹事会案を審議した。主な案件は以下の通りである。
 - 1) 名誉会員に関する会則の改正案および表彰規定案が了承された。
 - 2) 会長・評議員の選挙を行う。
 - 3) ニュースレターを発行し, 総会・評議員会・幹事会の議事要録, 行事予定等の周知を図る。これら速報性のある内容はすべて学会ホームページにも掲載する。
 - 4) 会員の増加を目指し他学会大会等における広報活動を検討する。
 - 5) 「植生史研究」第 11 巻 2 号, 第 12 巻 1 号・2 号を編集・刊行する。大会での発表内容および考古学分野からの投稿を重点的に促す。
 - 6) 第 18 回大会を 2003 年 11 月 29 日・30 両日に岡山理科大学国際学術交流センター (倉敷市) において開催すべく準備を進める。プログラムの順番はシンポジウム, 一般発表の順で行う。
 - 7) 物故会員にちなんだシンポジウムの開催および追悼文の会誌掲載に関するガイドラインを検討する。

- 8) 数年来の財政難のおり近い将来の会費値上げを 2002 年度総会において予告する。

第 17 回日本植生史学会大会 (報告)

2002 年 11 月 16・17 日の 2 日間, 福井県立恐竜博物館において第 17 回大会が開催された。詳細は以下の通りである。

会場: 福井県立恐竜博物館 (福井県勝山市村岡町寺尾 51-11)

大会実行委員会: 寺田和雄 (委員長), 矢部淳・半田久美子 (委員)

日程: 11 月 16 日 (土) 一般研究発表・懇親会

11 月 17 日 (日) シンポジウム・総会

一般研究発表 (口頭発表)

A. 生態, 古生態と環境変動

A1 紀藤典夫: 晩氷期における東北地方のブナの分布

A2 沖津 進: 針広混交林の成立に果たすチョウセンゴウウの生態的役割

A3 大井信夫・北田奈緒子・宮川ちひろ・斎藤礼子・岡井大八: 福井県中池見凹地更新世堆積物の花粉分析から見た植生史

A4 藤根 久・尾崎和美・新山雅広・岩瀬彰利: 豊川低地の旧海岸線と周辺貝塚

B. 人と植物の関係史

B1 能城修一・鈴木三男: 青森県の縄文時代の遺跡におけるウルシの検出

B2 三村昌史・能城修一・緒方 健: 新宿区行元寺跡より出土した木製品の樹種

B3 堀木真美子: 愛知県豊田市郷上遺跡から出土した井戸材について

B4 樋上 昇: 樹種から見た尾張地域の木製品

B5 佐々木由香・能城修一: 東京都東村山市下宅部遺跡の水場遺構にみる縄文時代後期の森林資源活用

B6 山田昌久: 森林の時間蓄積・人類 森林交渉の継続・人類と森の距離: 縄文・弥生・古墳遺跡産出材と加工器具から見る人類 森林交渉

B7 鈴木 茂・藤根 久・新山雅広・松葉礼子: 鎌倉時代における鎌倉市由比ヶ浜南遺跡の古環境

B8 堀 輝三: 中国からのイチヨウの渡来時期と日本における巨樹分布について

一般研究発表 (ポスター発表)

A. 生態, 古生態と環境変動

P1a 吉川博章・北村孔志: 掛川市杉谷の鮮新統掛川層群より産出した大型植物化石

P2 a 松下まり子:大隅半島肝属平野における完新世の植生
変遷史

B. 人と植物の関係史

P3 b 佐藤征弥・佐藤陽子・小倉奈々・堀 輝三:日本の巨
樹イチヨウにみられる DNA 変異とその地理的分布

C. 分類・系統と生物地理

P4 c 西田治文・松本みどり:北海道産中新世のゼンマイ属
化石根茎とゼンマイ科の進化

P5 c 塚腰 実・寺岡明文・山崎博史:広島県三次市に分布
する塩町層から産出した大型植物化石

シンポジウム『考古?生態?進化?総合科学としての植生史
学を考える』

寺田和雄:趣旨説明

網谷克彦:鳥浜貝塚と植生史研究

谷川章雄:都市の環境史と植生史研究

- 江戸城外堀の事例から -

木村勝彦:木材研究と年輪年代学の新しい展開

宮田昌彦:海藻と海草の利用に関する民族植物学的研究

西田治文:被子植物の系統と進化研究の新展開

2002 年度総会議事要録

日時:2002 年 11 月 17 日 12:30 ~ 13:30

場所:福井県立恐竜博物館研修室

議長:谷川章雄

1. 報告事項

1-1. 庶務

1) 会員動向(2002 年 11 月 16 日現在)正会員 378 名
(学生会員 19 名)

2) 第 19 期日本学術会議会員の選出に係る学術研究団
体に登録され、地質科学総合研究連絡委員会(第 4 部)を
関連研究連絡委員会の第 1 位として回答した。

1-2. 広報・渉外

1) 学会ホームページを開設すべく準備した。

1-3. 編集

1) 会誌「植生史研究」第 10 巻第 2 号,第 11 巻第 1 号を
刊行した。

1-4. 行事

1) 第 16 回大会を 2001 年 10 月 20・21 日,北海道教育大
学函館校において開催した。大会実行委員長:紀藤典
夫,大会実行委員:木村勝彦,半田久美子。

2) 第 20 回談話会を本学会の独立行事として,2002 年 3
月 9 日 13:00 ~ 16:30 に大阪市立大学で開催した。タ
イトル:「日本の第四紀植物学と考古植物学の発展 - 粉
川昭平先生の足跡と貢献」。世話人:辻誠一郎,南木睦
彦,百原 新,松下まり子,能城修一,大井信夫,田
村実,塚腰 実,半田久美子。

3) 第 17 回大会を 2002 年 11 月 16・17 日,福井県立恐竜
博物館において開催すべく準備した。大会実行委員長:
寺田和雄,大会実行委員:矢部淳・半田久美子。

1-5. 会計

1) 2002 年度決算報告。

収 入		支 出	
会費	1,131,382	会誌発行費	845,995
会誌売上	112,770	大会準備金	100,000
利息	22	事務経費	288,802
収入合計	1,244,174	支出合計	1,234,797
前年度繰越金	7,077	次年度繰越金	16,454
合 計	1,251,251	合 計	1,251,251

2) 2002 年度会計監査報告。「日本植生史学会 2002 年度
収支の諸帳簿,預金通帳および諸書類などを厳正に監
査しましたところ,適正に処理されておりましたので報
告します。会計監査:中静 透」

2. 審議事項

2-1. 名誉会員として会長から 2 名の会員が推薦され,承
認された。名誉会員:棚井敏雅,村田 源。

2-2. 名誉会員の選出に係る会則第 4 条 b の改正案が提出さ
れ,承認された。

「会則第 4 条 b. 名誉会員は植生史学に顕著な功績の
ある会員,もしくは本会の発展に寄与した会員の中か
ら,評議員会が推薦し総会の承認を受けた個人とする。
名誉会員は会費の納入を要しない。」

2-3. 奨励賞と学会賞の選出に係る表彰規定案が提出され,
承認された(別項参照)。

2-4. 2003 年度予算案(2002 年 10 月 ~ 2003 年 9 月)が賛
成多数で承認された。

収 入		支 出	
会費	1,503,000	会誌発行費	1,204,000
会誌売上	100,000	大会準備金	100,000
雑収入	22	選挙経費	40,000
		事務経費	260,000
		予備費	15,476
収入合計	1,603,022	支出合計	1,619,476
前年度繰越金	16,454		
合 計	1,619,476	合 計	1,619,476

< 表彰規定 >

1. 本会は,植生史学に関する顕著な研究業績をあげた会
員,もしくは植生史学の発展・普及に貢献のあった会員
に対し表彰を行う。

2. 表彰の内訳は次のとおりである。

- a. 奨励賞は、過去 2 巻分の本学会誌に掲載された優れた原著論文のうち、毎年度審査委員会が原則として 1 件を決定する。ただし、第 1 著者の受理日の年齢が 40 才未満であるものを対象とする。
 - b. 学会賞は、出版物を中心に植生史学に貢献した個人または団体を対象に、4 年に 1 回審査委員会が公募による候補者より決定する。
 - c. 奨励賞と学会賞の審査委員会は、会長・評議員に加え会長から指名を受けた会員で構成される。
3. 本規定は 2002 年 11 月 17 日より実施する。

< 名誉会員推薦理由 (辻 誠一郎) >

2002 年 11 月 17 日の 2002 年度総会において、棚井敏雅会員、村田 源会員の 2 氏が会長から名誉会員の推薦を受け承認されました。2 氏の推薦理由をここに掲載いたします。

棚井敏雅会員

棚井氏は 1923 年生まれ、1946 年東京大学を卒業後、北海道大学副手、東京大学助手、通産省地質調査所技官を経て、1956 年北海道大学助教授に赴任、教授を経て、1987 年定年退官された。

棚井氏は、日本の古植物学とくに新生代古植物学の第一人者として研究を推進して来られた。1962 年に東京大学に提出した学位論文“Neogene floral change of Japan”は新第三紀フロラを集大成したもので、その後の研究の基礎を打ち立てた。その後、化石フロラごとのモノグラフ的研究を続けるとともに、北半球の温帯林形成史という視点から、カエデ属、ブナ属、ナンキョクブナ属化石などを取り上げ、それらの系統進化や植物地理について論じてきた。先生の研究は、その基礎になった化石資料を標本として整理保管し、研究結果の再検証や新しい観点の研究の余地を残すということに極めて厳格であった。このような姿勢は本学会の目指すところでもある。本学会に対しては、古植物学、層序学、石炭地質学の立場から、常に暖かい助言と援助を惜しまなかった。先生の植生史学を含む古植物学への貢献と本学会への功績は著しく、ここに棚井氏を名誉会員に推薦する。

村田 源会員

村田氏は 1927 年生まれ、1947 年京都師範学校卒業後、京都師範大学嘱託、京都大学嘱託等を経て、1952 年京都大学助手に赴任、講師を経て、1990 年定年退官された。

村田氏は、日本および関連地域における現生のフロラの研究を一貫して推進して来られた。とくに日本の植生およびフロラの固有性や広く北半球における関連性につ

いて植物分類・地理学の立場から地道な資料の蓄積を続け、その膨大な資料の蓄積を基礎にした実証的な日本のフロラの成り立ちと由来の研究を展開した。北村四郎氏との原色日本植物図鑑(保育社)はその到達点の一つでもあった。一方、日本の自然環境と植物文化にも強い関心を寄せ、化石資料とを総合しながら日本固有の植物文化の成り立ちにも言及してきた。先生の研究は、その基礎になった植物標本を整理保管し、研究結果の再検証や新たな研究の余地を残すということに極めて厳格であった。本学会に対しては、植物分類・地理学の立場から、常に暖かい助言と援助を惜しまなかった。先生の植生史学を含む植物分類・地理学への貢献と本学会への功績は著しく、ここに村田氏を名誉会員に推薦する。

第 17 回 (2003 年度第 2 回) 幹事会議事要録

日時: 2003 年 3 月 1 日 14:00 ~ 17:30

場所: 千葉県立中央博物館会議室

出席者: 社会長、江口庶務幹事、斎木会計幹事、樋泉広報・渉外幹事、植村編集委員長、半田行事委員長、清永行事委員

1. ニュースレター 1 号を発行した。
2. ホームページを、国立情報学研究所学協会情報サービスをサーバとしてアップロードした。
3. 第 17 回福井大会の参加者数は 97 名 (学生会員 62 名: 非会員 35 名)、懇親会参加者は 60 名であった。
4. 第 19 期日本学術会議会員の推薦にあたり会長を推薦人に決定した。
5. 物故会員への対応に関する内規を設定することとした。
6. 海外在住会員においては、各国内事情により会費の送金が困難な場合が多いことから、その会費納入方法を検討することとした。
7. 清永丈太氏への行事委員の委嘱が承認された。

第 18 回 (2003 年度第 3 回) 幹事会議事要録

日時: 2003 年 6 月 14 日 14:00 ~ 18:30

場所: 千葉県立中央博物館会議室

出席者: 社会長、江口庶務幹事、斎木会計幹事、樋泉広報・渉外幹事、植村編集委員長、西田編集副委員長、清永行事委員

1. 会費値上げ案作成に向けて、来年度予算案における会誌印刷費および事務経費に関して検討した。
2. ニュースレター 2 号を発行した。
3. 第 21 回談話会「照葉樹林の植生観察会」を 2003 年 5 月 31 日・6 月 1 日、宮崎県東諸郡郡綾町において開催した。話題提供: 河野耕三「南九州の森林植生の分布パターン

宮崎の現存植生を中心に。参加者：14名。

4. 表彰規定に基づく「学会賞に関する内規」および「奨励賞に関する内規」を検討し、学会賞・奨励賞の審査委員長は会長が務め、受賞者の最終決定は審査委員長が行なうこととした。
5. 学会賞・奨励賞の受賞者は、大会にて講演を行ない、懇親会に招待されることとした。
6. 「賛助会員に関する内規」および「広告の掲載に関する内規」が承認された（別項参照）。
7. 第19回大会の開催地は中央大学（東京）に決定した。
8. 第22回談話会の内容は野外調査実習として検討することとした。

< 賛助会員に関する内規 >

1. 日本植生史学会会則第4条dおよび付則2に基づく、賛助会員に対する特典を以下のように定める。
2. 賛助会員一口に対し、会誌「植生史研究」通常号を3部進呈する。
3. 本学会発行の冊子類に掲載する広告について、料金を通常の2割引とする。
4. 本内規は2003年6月14日より実施する。

< 広告の掲載に関する内規 >

1. 日本植生史学会発行の冊子類に、広告記事を掲載できる。その様式と料金を以下のように定める。
2. 刷り上りA4版1ページにつき30,000円、A5版1枚に

つき20,000円とする。

3. 本内規は2003年6月14日より実施する。

< ホームページ開設のお知らせ >

本学会のホームページが国立情報学研究所をサーバとして開設されました。どうぞご利用ください。ホームページURL: <<http://www.soc.nii.ac.jp/historbot>>。おもな内容は、行事のご案内、学会ニュース記事、会誌バックナンバーの紹介、投稿案内、学会のあらまし、入会案内など。

日本植生史学会第4期会長・評議員選挙報告

表記選挙開票を2003年7月12日午後3時より国立歴史民俗博物館にて行なった。開票には、谷川章雄選挙管理委員長、辻現会長、江口庶務幹事、立会人2名（辻圭子、後藤香奈子）の立ち会いのもと行われた。郵送数総計は65通で、その結果は以下の通りです（敬称略）。

1. 会長：辻 誠一郎；鈴木三男（次点）（投票総数65票、内白票4）。
2. 評議員：百原 新、能城修一、鈴木三男、植村和彦、西田治文、南木睦彦、山田昌久、高原 光の8名；紀藤典夫・松下まりこ（次点）、沖津 進（次々点）（得票順、最大8名連記：投票総数464票）。なお、次期評議員に辞退者が出た場合には、9位以下からの繰り上げ当選とし、9位の2名については年長者を上位とする。

査読者への謝辞

植生史研究第11巻に投稿された論文等は下記の方々に査読していただきました。記して御礼申し上げます。

紙谷 智彦	木村 勝彦	杉田 久志	中静 徹
能城 修一	百原 新	守田 益宗	